

エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 H25年度 第1回エゾシカ・陸上生態系WGの概要

平成25年6月24日（月）13:30～17:00 釧路地方合同庁舎 第1会議室

(1) 主な議題

- ・H24 シカ年度実行計画実施結果について
- ・H24 シカ年度実行計画案について
- ・植生指標開発の進捗状況について
- ・隣接地区・エゾシカ A 地区の管理方針の検討について

(2) H24 シカ年度実行計画実施結果

○エゾシカ個体数調整捕獲の結果（別添1 参照）

〈遺産地域内：環境省〉

- ・知床岬地区では 32 頭を捕獲。捕獲実施後の個体群密度は推定 3.4 頭/k m²となり、当面の目標であった 5 頭/k m²を達成。
- ・ルサー相泊地区では 78 頭を捕獲。個体数航空調査の結果、2003 年よりも若干少ない個体数となった。
- ・幌別－岩尾別地区では 418 頭を捕獲。個体数航空調査の結果、生息密度は 2011 年と比較して 1/4 に低下したが、大雪による餓死等も影響。

〈隣接地区：林野庁、斜里町、羅臼町〉

- ・林野庁では、春川古丹地区において囲いわなで 56 頭を捕獲。
- ・斜里町では、真鯉地区及びウトロ地区において合計 130 頭を捕獲。
- ・羅臼町では、羅臼町内（遺産地域外）で 274 頭を捕獲。

○植生モニタリングの結果

- ・森林では、広葉樹の稚樹はほとんど見られない。下枝は半島先端部ほど少ない傾向で、幌別台地～知床五湖で特に少ない。
- ・林床植生のうち、シカの不嗜好性植物の被度は平均 34.4%と多い。知床岬地区や斜里側で特に多い。
- ・知床連山登山道周辺では、雪田・高層湿原と、亜高山帯の低木類や高茎草本でエゾシカによる採食が高頻度。

○エゾシカ個体数調整実施地区における植生への影響評価（別添2 参照）

- ・知床岬地区ではササ丈やイネ科草本の現存量増加を確認。森林の下層葉量も回復傾向。個体数調整による効果が見られた。
- ・ルサー相泊地区では、捕獲数の多いルサでは、捕獲数の少ない相泊と比較して、草本の採食量が顕著に少なく、個体数調整の効果が示唆される。

(3) H25 シカ年度実行計画(案)について(別添3 参照)

各個体数調整やモニタリング事業を継続実施する他、以下の内容を実施予定

○個体数調整

- ・新たにウトロ地区における囲いわな捕獲を検討(林野庁)

○モニタリング調査

- ・広域採食圧調査(森林植生): 知床岬、ルシヤ、幌別-岩尾別、ルサ、相泊
- ・広域採食圧調査(高山・亜高山植生): 知床岳、羅臼湖
- ・エゾシカ個体数航空調査: 個体数調整実施地区及びルシヤ地区
- ・鳥類相調査: 知床岬、幌別-岩尾別

(4) 植生指標開発について

- ・6月14日に植生指標検討部会を開催し、知床岬地区を中心に検討。
- ・これまでの調査結果から、議論を踏まえて整理案(別添4)を作成。
- ・知床岬地区については今年度指標を作成。今後、他地域でもこれを参考にして指標を検討していく。

(5) 隣接地区・エゾシカA地区の管理方針の検討について

- ・ウトロ地区国有林内における個体数調整捕獲について個体数調整捕獲を実施する方針が示された。
- ・ルシヤ地区でのロードカウントで、5～7月に多数のシカが確認されたことが紹介された。ルシヤ地区でのモニタリング、個体数調整のデザインを検討し、次回WGで提案することとなった。

2 今後の主な予定

- ・平成25年9～10月 平成25年度第2回エゾシカ・陸上生態系WG
H25シカ年度個体数調整事業の具体的な実施方法
ルシヤ地区におけるエゾシカ対策・モニタリングデザイン案 他
- ・植生指標検討部会の開催(時期未定)